

【教育委員会挨拶】

練馬区教育委員会教育長 三浦 康彰

国の第4期教育振興基本計画では、今後の教育政策に関する基本方針の一つとして、「グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成」を掲げ、学びの動機付けや幅広い資質・能力の育成に向けて「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を行っていくことは、社会の持続的な発展を生み出す人材養成において不可欠であるとしています。

そうした中、豊玉中学校では、令和5・6年度の2年間にわたり、研究主題を「未来の社会をつくる『学びの主体者』の育成」とし、研究に取り組みました。生徒が課題を自分事として捉え、課題の解決に向けて生徒同士が関わり、協働する場面や、生徒自身がよりよい学校生活について考え、表現する場面を教育活動に計画的に組み込むことで、学びの主体者の育成を目指しました。

研究では、授業において、状況に応じた学習形態や活動の選択、ICT機器や思考ツールの効果的な活用を通して、課題解決学習に取り組みました。特別活動では、事前指導を通して生徒が中心となって学級活動の計画および運営ができるようにし、生徒主体の学級活動を推進しました。また、授業や特別活動等の取組を分析し、教員の授業改善および生徒の学習改善につなげるために、生徒の授業に対する得意・不得意といった意識や行事に対する期待度や達成感を見取るアセスメントの研究も行いました。

本研究を通して、授業改善が進み、生徒が課題解決や合意形成に向けて主体的に学習に取り組む態度が醸成されたことは、大きな成果であると考えます。

結びにあたり、本校の研究に対し温かくご指導いただきました、東北大学 応用認知神経科学センター助教 榊 浩平 先生、東京女子体育大学講師 横山 弘美 先生、東村山市立東村山第五中学校指導教諭 吉川 滋之 先生ならびに北海道教育庁渡島教育局教育支援課義務教育支援班主査 松本 了祐 先生には深く感謝申し上げますとともに、慶野 富士夫 校長先生をはじめ教職員の皆様に敬意を表し、あいさつといたします。

【校長挨拶】

練馬区立豊玉中学校長 慶野 富士夫

令和5・6年度の2年間、練馬区教育委員会の教育課題研究指定校として、研究主題を「未来の社会をつくる『学びの主体者』の育成」とし、研究に取り組みました。学習指導要領では、急速な社会の変化やグローバル化に対応し、次世代を担う子供たちが主体的に行動し、自ら考え判断し、たくましく生き抜く力を養うことが掲げられています。そのような資質・能力をもつ人材を「学びの主体者」と定義し、育成するための教育活動をデザインすることに焦点を当てて研究を進めてきました。

「学びの主体者」は、一方的に知識を受け取るだけでなく、日々の学習や生活の中での気付きから生まれる疑問や知的好奇心を基に、課題を自分事として捉え、設定し、4人組を軸とした話合いを通じて協働学習を行い、多面的・多角的に考え、解決・解消し、その内容を発信・表現・実行できる人材です。また、学び続けるために、取組の振り返りや反省から改善点や新たな気付きを見だし、調整しながら次の学習へとつなげていく力を養うことが期待されます。

研究方法としては、教科指導と特別活動を有機的に結びつけた学びの機会を提供し、環境を整えるために2つの研究チームを編成し、現状分析、振り返り、改善策を提示するアセスメントチームを設置して研究を進めました。本日はこれまでの研究成果として、実践例を御報告いたします。このリーフレットや研究紀要、実際の活動を御覧いただき、御指導を賜れば幸いです。また、参加者の皆様お一人お一人が指導の改善を考える一助となれば幸いです。

最後になりますが、本研究を進めるに当たり、東北大学応用認知神経科学センター助教 榊 浩平 先生、東京女子体育大学講師・ホワイトミーティング認定講師 横山 弘美 先生、東村山市立東村山第五中学校指導教諭 吉川 滋之 先生、北海道教育庁渡島教育局教育支援課義務教育支援班主査 松本 了祐 先生に直接、丁寧な御指導を賜りました。心より感謝申し上げます。また、研究の機会をいただき、様々な御指導と御支援を賜りました練馬区教育委員会の皆様にも深く感謝申し上げます。